

南風原町 区長ヒアリング
地域福祉計画の圏域（中学校区）について

日時：平成30年9月3日（月） 16時20分～17時00分

場所：南風原町役場3階 庁議室

参加区長：宮平区、兼城区、喜屋武区、新川区、第二団地、大名区

テーマ：地域福祉における圏域設定について

<中学校区の設定に関して>

■事務局より資料説明

～各区長より意見交換～

A区長：南風原町は昔から上側と下側の2分に分けられる。今の南風原中学校区と南星中学校区では都市的な地区と農村地区というように環境が異なるので、中学校区で分けたほうが良い。

B区長：同意見です。中学校区で地域性の違いが見られるため、中学校区が必要。

C区長：区長たちは自分の自治会のことで精一杯。地域活動に参加する人が少ない中一生懸命やってはいるが、それでも地域すべての見守り活動が十分とは言いきれない。中学校区という大きな範囲より、まずは足元の字自治会の充実、そのための取り組みを強化していくべきと思う。

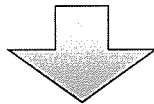
D区長：中学校区で設定すると範囲が大きいので、機能するかは難しい。おっしゃるように各字の自治会の密度を濃くしていくことが大事。今の自治会の範囲でさえも活動は満足にできていないのが現状。

E区長：第一次計画で揚げられている「第2層」の中学校圏域について、構成メンバーを見ると、既にこういった学校関係者やCSW、包括センターなど字自治体の単位まで入り込んでくれている。個別具体的な課題に専門員も関わっているから、中学校区は必要ないと思う。

F区長：高齢の方も増え、孤独死などを防ぐためにも圏域の範囲は小さくしてネットワークや見回りなどを強化するべきだと思う。

◆区長会でのヒアリングの結果◆

- ・ 中学校区の地域性はあるが、最も必要なのは字自治会の基盤づくりである。
- ・ 各種区長中心に取り組んでいるが、そこには専門員も既に関わりを持っている。
- ・ 南風原町は字・自治会数も多くないので、今の小地域を強化することに専念してはどうか。



- ・ “組織への参加”を敬遠する傾向があるので、第2層中学校区を、「地域を超えて参加する緩やかな連携の場＝地域福祉プラットフォーム型」として設定してはどうか。